



オープン&ビッグデータ活用・地方創生推進機構

平成26年度 第2回技術委員会資料

次年度検討テーマ案

2015.02.10

オープン&ビッグデータ活用・地方創生推進機構 事務局

前回の委員会で頂いたご意見

1. 方向性に関して

- ▶ これまでは、データを発信する視点での検討を行ってきた。今後は、データを利用する視点を意識した検討が必要である。
 - ◇ データを利用してもらうには、データをどのように探すかが課題である。
 - ◇ 自治体や公共機関に、手間なくデータを出していただくことが必要である。
 - ◆ 自治体のレベルに合わせた簡単なガイドなど。
- ▶ ビジネス的・国際展開の観点を含めた検討も必要である。

→ テーマ1

→ テーマ2

2. 他との関連性・相互運用性に関して

- ▶ 情報流通連携基盤システム外部仕様書と共通基盤語彙との関係
- ▶ Meta BridgeやLOD Vocabularyとの連携
- ▶ オープンデータを検討している他の様々な団体との知見・アウトプットの共有・連携

テーマ1・2共通の留意事項

テーマ1「オープンデータを利用するための環境整備」

■ 概要

- ▶ オープンデータの利用者が参照できる、サンプルコードやツール・パッケージ等をまとめて、公開する。

■ 内容

▶ 活用ガイド

◇いくつかのシナリオを想定し、それを実現するために必要なデータの検索・取得・加工の手順を紹介する。

◇データ処理を行うためのサンプルコード等を提供する。

- ◆ python、ruby、perl、JavaScript、Excelなどによるサンプルコード
- ◆ 地理空間情報の扱い方（形式の変換・検索・GISツールなど）

▶ ツール・パッケージ集

◇オープンデータの利活用には有用なツール・パッケージをまとめて、カタログとする。

- ◆ データの分析ツール・加工ツールなど

◇ツールごとに、下記の情報を提供する。

- ◆ 提供する機能の概要
- ◆ ツール・パッケージの使い方（インストール方法やサンプルコードなど）
- ◆ ツール・パッケージの入手先
- ◆ 有償である場合は、価格または問い合わせ先

テーマ2 「オープンデータの提供負荷を軽減するための環境整備」

■ 概要

- ▶ オープンデータの利用を促進するためには、ニーズに合わせたデータを効率よくオープン化し、提供することが必要である。
- ▶ 自治体や公共機関などが保持するデータを、オープンデータ提供するための手間を軽減するためのツール群をまとめて、公開する。

■ 内容

- ▶ ニーズ調査
 - ◇ オープンデータの活用事例において広く使われているデータや、提供を求められているデータを、その公開事例を含めて調査し、まとめる。
- ▶ マッシュアップを促進するためのデータ形式
 - ◇ 予算区分等、データの分類区分を統一させるための指針
 - ◇ メタデータやボキャブラリ、データカタログにおける属性名の定義方法
 - ◆ 共通語彙基盤等とも連携して検討。

テーマ2 「オープンデータの提供負荷を軽減するための環境整備」

■ 内容（続き）

- ▶ オープンデータを掲載するためのツール群とその使い方
 - ◇ データカタログソフトウェア
 - ◆ CKAN（・Socrata・Open Government Platform）など
 - ◇ CMS（コンテンツ管理システム）
 - ◆ Drupal・Wordpress・NetCommonsなど
 - ◇ 機械可読性の高い利用ルールを付与するための手法・ツール
 - ◆ Creative Commons Rights Expression Language (CC REL) など
 - ◇ その他のツール（次年度の検討のため、今年度は下記の評価版を構築する）
 - ◆ 情報流通連携基盤の参照実装パッケージ
 - ◆ ボキャブラリ管理サイト
 - ◆ メタデータ抽出ツール
 - ◆ 「オープンデータガイド」技術編に掲載した、表形式データへの指針に対するチェックツール

■ 留意事項

- ▶ 複数の組織が、現在自治体向けのオープンデータ導入ガイドを作成しようとしている。それらの組織と連携して進める必要がある。

